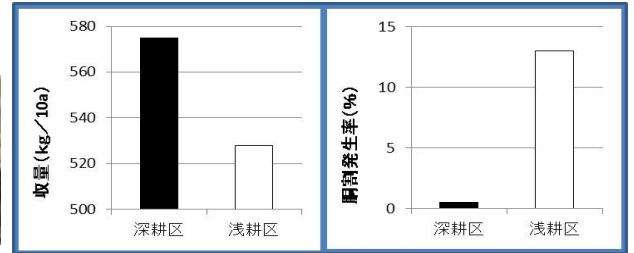
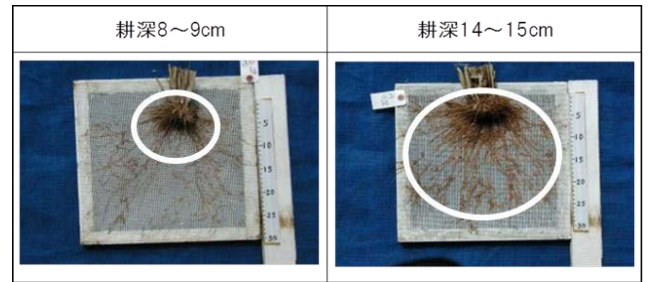


秋起こしのポイント

1. 今より5cm深耕しよう

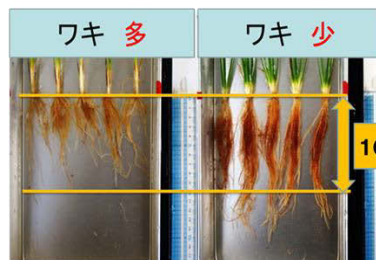
管内の圃場を見渡すと作土深 10cm 程度の圃場が多くみられます。今より 5cm 深い作土深 15cm 程度まで深耕することで根の生育域を広げ、水分や養分を吸収しやすくすることで収穫量が増加します。トラクターの速度に注意して深耕しましょう。

速度(m/秒)	速度(km/時)	耕深(cm)	備考
0.25	0.90	14~16	歩く速さの1/4、15a/時間
0.34	1.22	12~14	歩く速さの1/3、20a/時間
0.50	1.80	10~12	歩く速さの2/3、25a/時間

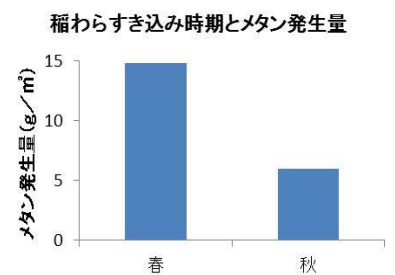


2. 10月中に実施して稲わらの腐食を促進しよう

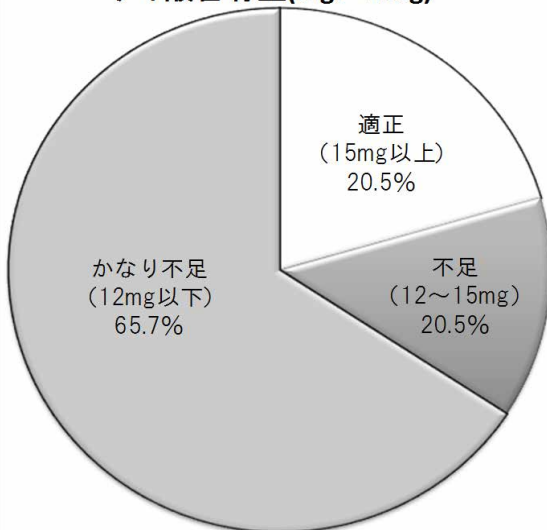
稲わらをすき込むことで堆肥の施用と同等の効果が期待出来ます。また稲わらのすき込みを秋の暖かいうちに行うことで腐食を促進しワキ（メタン）の発生を抑制できます。ワキは根の伸長に障害となるので秋の間に行いましょう。



移植21日後の根の状況



平成30年度 土壌分析(73点)
ケイ酸含有量(mg/100g)



3. 土づくり資材の投入

稲はケイ酸植物と言われるくらいケイ酸を吸収します。稲が吸収した分を補給するためにケイ酸質資材を施用し地力UPを図り、登熟後半まで根の活力を維持して、異常気象などに強い稲体を作るための土台作りをしましょう。



○ケイ酸質資材の主な効果

- ① 登熟を向上させ、粒張りや品質を良くする。
- ② 乳白米を軽減する。
- ③ 病害虫に対する抵抗性を強める。
- ④ 倒伏に強くなる

